

世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ 情報誌

Fresh! Water

Aquatotto News No.20



1P、2P……[アクア・トト ぎふは、おかげさまで開館10周年]

3P、4P……[10周年特別企画 神秘の大河～グレートアマゾンを開催] [特別企画展 赤い清流]

5P………スタッフ飼育日誌 [口から、こんにちは赤ちゃん] 環境学習プログラム [出張授業]

6P………INFORMATION



ありがとうございます。
アクア・トトぎふは、おかげさまで開館10周年



「ぎふ清流トークショー」開催 平成26年8月7日[木]

アクア・トトぎふの開館10周年を記念して「ぎふ清流トークショー」が古田肇岐阜県知事、ラモス瑠偉FC岐阜監督をお招きし、盛大に執り行われました。



水族館入口の特設会場で開催された式典では、古田知事、堀館長らの開会のあいさつに続き、開館10周年特別企画「未来のアクア・トトぎふ 絵画コンテスト」の表彰式が行われました。

「夏休み」をテーマにしたトークショーで、古田知事は長良川で遊んだ思い出を、堀館長は白川町で過ごした話を、ラモス監督は自然豊かなブラジルでの少年時代のエピソードを紹介しました。それぞれが、子供のころ親しんだ川での思い出などを披露され、「さまざまな体験をして夏休みの思い出を作って欲しい」と会場の子供たちへメッセージを送りました。

また、会場では子供たちとの質疑応答や、参加者全員でのプレゼント抽選会なども催され、暑中、200名以上の親子連れの皆さまがお楽しみくださいました。



ごあいさつ

おかげさまで平成26年7月、世界淡水魚園水族館「アクア・ト ぎふ」は開館10周年を迎えることができました。これもひとえに皆さまの温かいご支援、ご指導のおかげと感謝し、厚くお礼申し上げます。

10年を振り返りますと、わたくしたちは、「清流の国ぎふ」の豊かな自然と、そこにくらす多種多様な生き物の素晴らしさをご紹介することに尽力してまいりました。また、地球規模で水生生物が激減している現代において、その現状を正しくお伝えするとともに、そこに育まれている命を大切にすることを皆さまとともに考え、次世代に繋げることを使命とし努めてまいりました。おかげさまで、これまでに500万人近い皆さまにご来訪いただいております。それらを高く評価していただけた結果と自負しております。これを今後の励みとし、フィールドミュージアムとして、皆さまに体感し学んで頂ける場として、また、アミューズメントの場としても皆さまの憩いの場となるように更に努めてまいりますので、これまで同様ご支援賜りますようお願い申し上げます。



世界淡水魚園水族館
館長 堀 由紀子



開館10周年記念式典 平成26年7月12日[土]

7月12日、開館10周年記念式典、記念懇親会が盛大に執り行われました。当日は、多数の来賓の方々や、報道関係者をはじめ、さまざまなお立場で水族館運営にご支援をいただいております皆さま、約100名のご列席を賜りました。

記念式典では、当館を代表して館長 堀 由紀子より、積年の水族館運営への温かいご支援やご厚情に対してのお礼を申し上げます。続いて岐阜県副知事 高原 剛様をはじめ、岐阜県議会副議長 小川 恒雄様、各務原市長 浅野 健司様からご祝辞を頂戴いたしました。式典終了後は、当館レストランアロワナガーデンに会場を移し、記念懇親会が行われ、会場では、水族館運営会社である株式会社江ノ島マリンコーポレーション代表取締役社長 堀 一久がご挨拶申し上げ引き続き、地元選出の県会議員

足立 勝利様に乾杯のご発声いただきました。ご列席の皆さまとの思い出話に花を咲かせ、水族館の今後についての思いを語り合うなど、盛況を呈しました。



10周年開館記念特別企画

「神秘の大河～グレートアマゾン」を開催

2014年7月12日[土]～2015年4月12日[日]

開館10周年記念事業といたしまして、
「神秘の大河～グレートアマゾン～」を開催、
夏休みには多くのお客さまにご来館いただきました。

開館10周年記念特別企画に向けて

長良川と世界の淡水生物を展示する当館が、10周年という節目の年に皆さまにお伝えするべきことは何か、1年以上前から企画についての検討を始めました。さまざまな議論があった中、世界最大の流域面積を誇るアマゾン川をテーマとして、そこに生息する生き物について更にメッセージをお伝えしていこうということになりました。

アマゾン川は、アンデス山脈を水源とし、ゆっくりと蛇行しながら大西洋に注ぎ込みます。その長さは約6,500km。長良川の全長が約166km、日本で一番長い信濃川でさえ全長約367kmということを考えれば、そのスケールの大きさが想像できるでしょう。流域面積は705万km²で、これはオーストラリア大陸に匹敵します。アマゾンはまさに世界最大の巨大河川なのです。



広大なアマゾン川流域。そこには私たちの想像をはるかに超えた多種多様な生き物が生息しており、魚類だけでも実に3,000種類を数えるともいわれます。

アマゾン川のすべての情報は到底お伝えできません。では、どのような手法でどの部分を「切り取って」お伝えするのか、スタッフ同士で何度も話し合いを行いました。

インターネットが発達した現代では、「アマゾン川」と検索すると、知りたい情報がすぐに見つかります。アマゾン川に生息する生き物や、そこに暮らす人々の様子が瞬時にわかり、写真や動画もすぐに入手できます。

しかし、私たちが表現すべきことは、集めた情報を紹介するだけではなく、水族館として何らかのメッセージをお伝えすることではないか。それには、まず、アマゾン川を自分たちの目で見て体で感じる必要があるのではないか、という意見が出されました。そして、スタッフ自らがアマゾン川に行き、そこで知り得たこと、考えたことを水族館としてのメッセージとしてお客さまにお伝えしようということに決まったのです。

大河アマゾンへ

2013年10月、展示飼育スタッフと企画広報スタッフがアマゾン川現地に派遣されました。

日本を出発して36時間、降り立ったところは熱帯ジャングルに抱かれるペルーの都市、イキトス。「陸路では行けない世界最大の町」の異名を持ちます。アマゾン川の河口から4,000kmほど

上流ですが、雨季には川幅が4kmにもなります。乾季と雨季の水位の差はおよそ10m。川岸沿いの家屋は雨季の水位上昇にそなえ、高床式の構造になっています。活気あふれる市内の市場では、野菜やフルーツなどとともに、アロワナ、ピラニア、ナマズの仲間など、水族館で展示している魚たちが食材として並んでいます。ここに暮らす人々はアマゾン川の恩恵を受け、アマゾン川が生活空間の一部として存在しているのです。



スタッフが訪れたのはちょうど乾季の終わり頃、熱帯特有の生暖かい空気に満ち、赤道直下の強烈な日差しが照り付けていました。アマゾンのジャングルに足を踏み入ると、深い緑の中に小川や池、沼地などが点在しています。そこを流れる水は赤や黄色に染まり、まるでこの小川全体が錆びているような光景です。落ち葉を含む土壌成分が水に染みだしてこのような色になっており、この環境に適応した多くの生き物がくらしています。ここでは、テトラやエンゼルフィッシュなどの多くの魚を捕らえることができました。



アマゾン川本流では、地元漁師さんの協力を仰ぎ、底引き網漁や地引網漁などに参加させていただきました。本流を流れる水は茶色く濁り、透明度も高くありません。お世辞にも日本人が想像する「きれいな川」ではありませんが、ここでもさまざまな種類の魚を捕獲することに成功。アマゾン川が多くの生命を育む母なる大河であることは間違いのないようです。



約2週間の滞在を終え、スタッフは帰国しました。アマゾン川とその支流には、私たち日本人が想像もできないような光景が広がっていました。帰国後、私たちは、特別企画展のタイトルを「赤い清流」と決定。このタイトルには、赤や黄色に染まった、そして茶色く濁った流れにも、その環境に適応した多種多様な生き物たちが暮らしている、生き物たちにとってはこの流れも間違いなく「清流」なのだというメッセージが込められています。この特別企画展をご覧になったお客さまの中で、ひとりでも多くの方が、「本物の清流」とは何かということを考えるきっかけになれば幸いです。

企画広報チーム 北川律之

特別企画展 「赤い清流」

第一弾 水族館スタッフが見た！ 生のアマゾン体当たりレポートができるまで

魚類担当
国崎



魚好きの飼育スタッフの見たアマゾンとは、幼いころから憧れていた通りの場所で、生息環境がとても豊かなのが印象的でした。赤い清流をはじめとして、この豊かなアマゾン川の環境を是非、企画展で再現したいと思ったのです。

まずは現地で捕獲した魚たちを日本に輸送させることから始まりました。日本に生きて到着することのできた魚たちは、まずアクア・トトぎふの水や水槽という環境に慣れてもらわなくてはなりません。そのために開催の約半年前から輸送を開始したものの、途中で病気になったり、魚同士の組み合わせが悪く闘争が絶えなかったり、思うように餌を食べない期間が続いたり、企画展で元気に泳ぐ魚たちを見ていただくために、裏方では苦労の連続でした。

水槽の展示では環境の再現を心がけるようにしました。ジャングルに積もった落葉をたくさん輸送し、それを日本の透明な水に浸し、養分が染み出した

アマゾン川の魚たちにとってなくてはならない赤い水を準備。そして水中に潜りさまざまな魚たちの生息環境を観察した経験をヒントに、赤い清流のレイアウトを作り込んでいきました。水中とジャングルの水辺を再現したテラリウム水槽や浮草の生い茂る半水位の沼地水槽、そして枝や流木、水草の絡まった岸辺の再現水槽や太陽光からの水中のゆらぎにも気を配りました。

さらに、現地の人々の文化や生活の様子も含めて自分の体験を等身大の言葉でレポート風に表現する手法を用い、来館者の方々と共有できる工夫をしました。「一赤い清流一水族館スタッフ国崎が見た！生のアマゾン体当たりレポート」はこうして完成したのです。





アクア・トト ぎふ スタッフ 飼育日記



□から、こんにちは赤ちゃん

魚類担当
須田



昨年12月に入社して、初めて担当することになった4月のマンスリー水槽。テーマは、童謡「春の小川」からヒントをもらい「春の小川の生き物たち」に決定しました。4つの水槽を並べて春の小川でみられる幼魚や、桜(お花見)にちなんだ名前の魚などを展示することにしましたが、その中のひとつ、“小川のほとりに咲くタンポポ”をイメージして選んだ主役が、鮮やかな黄色い体色をしたラピドクロミス・カエルレウス(以下カエルレウス)です。カエルレウスはアフリカのマラウイ湖に生息するシクリッドの仲間、メスが卵を口の中で育て、稚魚になるまで保護するというおもしろい生態を持っています。解説板にもこの生態について載せていましたが、なんと!展示期間中に口内で卵を保護する様子を見せてくれたのです!これはお客さまにぜひ紹介しよう!と思い、展示水槽の脇に手作りのイラスト付き解説シートを掲出し、暇を見つけては水槽の前で得意げに解説までしていました。口の中で子育てをする魚がいることをご存じなかったお客さまもいっしょって、実際にその様子を見て驚いていたことは本当にうれしかったです。



■ 口内保育中の親魚



■ □から出てきた稚魚

そして、4月が終わりバックヤードへ移した後も順調に稚魚の成長を確認することができました。口内から吐き出され、ほかの魚に食べられてしまう恐れもあるため、親から隔離することにしました。「すぐ終わるから、ちょっとだけ我慢してね…」心の中でつぶやきながら、親の口をそ〜っと開くと、その瞬間に勢いよく稚魚たちが口の中から飛び出してきました!私が予想していたよりも稚魚はずっと大きくて、数も多かったことが驚きでした。さぞかし母親の口の中は賑やかだったことでしょう。展示期間は1カ月と短いものでしたが、マンスリー水槽の展示の仕方や稚魚の取出し作業、ブログによる生態の紹介など、さまざまな経験をさせてもらいました。そんなカエルレウスに感謝しながら、今日も稚魚たちを大切に育てています。

環境学習プログラム

さわってみよう 作ってみよう 観察してみよう 考えてみよう

[出張授業]

学習担当
河合



アクア・トト ぎふには、団体のお客さまを対象とした学習プログラムが約40種類あります。その1つに、当館のスタッフが学校などへ出向きレクチャーをする「出張授業」があります。レクチャーの内容については、事前に先生方と打ち合わせをして決めることがほとんどです。

例えば、先日お招きいただいた池田町立八幡小学校でのこと。「カワゲラウォッチングで杭瀬川について事前学習をしたので、更に詳しく川の生き物のことや現状について子供たちに教えてほしい」と担当の先生からご要望を受けました。そこで、「杭瀬川と生き物」「川の水質とゴミ問題」についてお話することにしました。

杭瀬川はどのような川でそこにはどんな魚がいるのか、杭瀬川が汚れると生き物はどうなるのかなどといった内容をクイズを交えながら進めました。また、コイの骨格標本や、川で拾ったゴミの実物なども持ち込み紹介しました。生徒たちからは、「コイに歯があるんだ〜」、「自分たちが何気なく捨てるゴミを生き物はエサと間違えて食べたり、ゴミによって傷ついたりすることもあるんだ〜」などの反応が上がり、初めて知る事実には驚いた様子でした。



■ 池田町立八幡小学校

出張授業では、ただ話をするだけではなく、標本などの実物を使ったり、実験や疑似体験できるゲームを取り入れたりするなどの工夫を凝らし、生徒たちの「記憶に残すこと」「興味・関心を高めること」「課題(疑問)を見つける力を引き出すこと」など、今後の学習に影響を与えられるように心がけています。出張授業の実施は、身近な自然や生き物に関心を広く高める効果があるとともに、水族館見学と組み合わせれば事前学習となり、自然環境と生き物についてより深くお伝えできるものと実感しています。学校と水族館とで「互いに連携し多くを伝える」。学校では伝えきれない水族館ならではの情報を盛り込んだ内容とした学習プログラムを充実させたいと考えています。



■ 自然生き物塾出張授業

「アマゾンの小川水槽」リニューアル

平成26年3月21日[祝]



開館10周年特別企画「グレートアマゾン」に先立ち、アマゾンエリアの水草水槽をリニューアルしました。グレーを基調とした3つの水槽に、緑色に輝く水草が生い茂る美しい水槽が完成しました。

日本動物園水族館協会技術研究表彰受賞

平成26年5月23日[金]



当館職員が執筆した論文、「コガタブチサンショウウオにおける飼育下繁殖の試み」が、公益社団法人

日本動物園水族館協会の平成25年度技術研究表彰を受賞しました。



コガタブチサンショウウオ

冊子「ぎふの淡水生物をまもる」協力

平成26年3月、7月



ウシモツゴ

岐阜大学の楠田哲士先生が編集した淡水生物の保全活動を紹介したフリー冊子「ぎふの淡水生物をまもる」が、2014年3月に発行され、アクア・トト ぎふで行っているウシモツゴやイタセンパラ、カスミサンショウウオの域

外保全活動や啓発活動について紹介させていただきました。7月に発行された増補改訂版では、当館3階で展示しているカワネズミなどについても新たに掲載させていただきました。



特別展示「タナゴの赤ちゃん」

平成26年6月20日[金]~7月31日[木]



タナゴの繁殖シーズンに合わせ、シロヒレタビラの仔魚・稚魚・成魚を展示しま



した。タナゴの仲間は、自然下で生きた二枚貝の中に卵を産みつけます。稚魚は泳ぎだすまで二枚貝の中で成長するため、普段はその姿を見ることができません。初めて見る仔魚や稚魚を、多くのお客さまが足を止めてご覧になりました。

開館10周年企画 絵画コンテスト「未来のアクア・トト ぎふ」表彰式

平成26年8月7日[木]



受賞者22名のうち、岐阜県知事賞、アクア・トト ぎふ賞、特別賞(幼児の部、小学生の部)を受賞した4名の方を招待し、表彰式を行いました。受賞作品22点は9/6~11/3プレリウドにて展示しました。

主な出来事

平成26年4月1日~9月30日

※ものづくりWSは土日祝開催

2.24~5.2	特別展示「ナガレタゴガエルのオタマジャクシ」
3.1~5.6	ものづくりWS「おさかなストラップやマグネットをつくろう!」
3.14~6.30	特別企画展「イモリ」
3.21	「アマゾンの小川水槽」リニューアル
4.1~30	マンズリー水槽「春の小川の生き物たち」
4.5~6	PRキャラバン「各務原さくら祭り」
4.13	アクア・スクール「イモリとあそぼう」
4.19	PRキャラバン「モジ・ワンダーシティ」
4.19~26	プレアクア・スクール「春のいきものみっけ」
4.20	アクア・スクール「イモリ博士になろう!!」
4.26~5.6	アクア・トト ぎふGW「清流!!トト・ウィーク」
5.1~31	マンズリー水槽「5月病を吹き飛ばせ!」
5.3	PRキャラバン「138タワー リバーサイドフェスティバル」
5.3	特別展示「岐阜市産カスミサンショウウオの保護個体」
5.10	PRキャラバン「なごや生物多様性センターまつり」
5.10~6.29	ものづくりWS「おさかな石けんをつくろう!」
5.11	アクア・スクール「イモリとあそぼう」
5.23	「コガタブチサンショウウオにおける飼育下繁殖の試み」で日本動物園水族館協会技術研究表彰受賞
5.25	アクア・スクール「イモリ博士になろう!!」
5.31	水族館ナイトツアー
6.1~30	マンズリー水槽「田んぼの四季」
6.7~7.19	羽島市主催「サイエンスセミナー」協力
6.8	アクア・スクール「新境川たんけんたい」
6.14~7.7	七夕特別展示「おさかなが輝く水中天の川」
6.18	出張授業「新境川について」[川の水质とゴミ問題]池田町立八幡小学校
6.20~7.31	特別展示「タナゴの赤ちゃん」
6.21~7.7	七夕イベント「おさかな短冊に願いをこめて」
6.22	アクア・スクール「川漁師になろう!」
6.26	出張授業「絶滅危惧種について」[外来種について]池田町立八幡小学校
6.28	みんなでナイトツアー
7.1~31	第39回 動物愛護に関する標語コンクール 作品募集
7.5	PRキャラバン「モジ・ワンダーシティ」
7.5	中部学院大学「かがさんずうアカデミー」協力
7.5~6	開館記念日特別企画 小学生と幼児入館無料
7.7~H27.4.10	岐阜信用金庫写真展
7.5~8.31	ものづくりWS「アマゾンおまもりペンダントを作ろう!」
7.12~H27.4.12	開館10周年特別企画「神秘の大河〜グレートアマゾン〜」
7.12~12.7	特別企画展「赤い清流」
7.12	開館10周年記念セレモニー
7.13	アクア・スクール「新境川たんけんたい」
7.19~21	PRキャラバン「テラスウォーカー」
7.19~31	水族館ナイトツアー
7.23	出張授業「きみもガリガニスターになろう!」サンプラザ児童センターうずら
7.26	お泊りナイトツアー
7.26	プレアクア・スクール「川のいきものみっけ」
7.24~31	アクア・スクール「飼育係一日体験」
7.21	第10回 アクア・トト ぎふ春の写生大会表彰式
8.2~27	水族館ナイトツアー
8.3	プレアクア・スクール「夏のおきものみっけ」
8.6~21.26	アクア・スクール「飼育係一日体験」
8.7	開館10周年企画 絵画コンテスト「未来のアクア・トト ぎふ」表彰式
8.7	開館10周年企画「ぎふ清流トークショー」
8.10~9.14	アクア・スクール「アマゾンはかせになろう!」
8.26	出張授業「ハリオの生態と特徴について」八幡公民館
8.31	出張授業「川の生き物観察」郡上市白鳥町六ノ里
9.6~10.26	ものづくりWS「石でアマゾンすいそくかんをつくろう!」
9.21	アクア・スクール「川漁師になろう!」
9.13~15	敬老の日特別企画 65歳以上入館無料
9.13	水族館ナイトツアー
9.20	第二回公開シンポジウム「今、危機にある岐阜の生きものたち〜岐阜市版レッドリスト作成に向けて〜」講演協力
9.25	平成26年度 動物慰霊祭



アクセス情報

東海北陸自動車道

「川島PA・ハイウェイオアシス」よりすぐ、「一宮木曾川 IC」出口から車で約10分、「岐阜各務原 IC」出口から車で約10分。一般道からもお越しいただけます。駐車場無料。

鉄道・バス

JR「岐阜駅」・名鉄「名鉄岐阜駅」より岐阜バス川島松倉行き「川島笠田」下車徒歩約15分（土日祝は「河川環境楽園」停まで乗り入れる便もあります）、JR「那加駅」・名鉄「新那加駅」から、「かかみがはらふれあいバス」利用、JR「木曾川駅」・名鉄「新木曾川駅」下車タクシー利用、など。

※公共交通機関ご利用の場合は、事前にお時間等ご照会ください。

入館料金(税込)

区分	個人		一般団体	区分	学校団体
	1回券	年間パスポート	20人以上		
大人	1,500円	3,000円	1,200円	大学生	1,000円
中学生・高校生	1,100円	2,200円	900円	高校生	850円
小学生	750円	1,500円	600円	中学生	520円
幼児(3歳以上)	370円	740円	300円	小学生	420円
				保育園・幼稚園児	260円
				園児付添保護者	1,000円

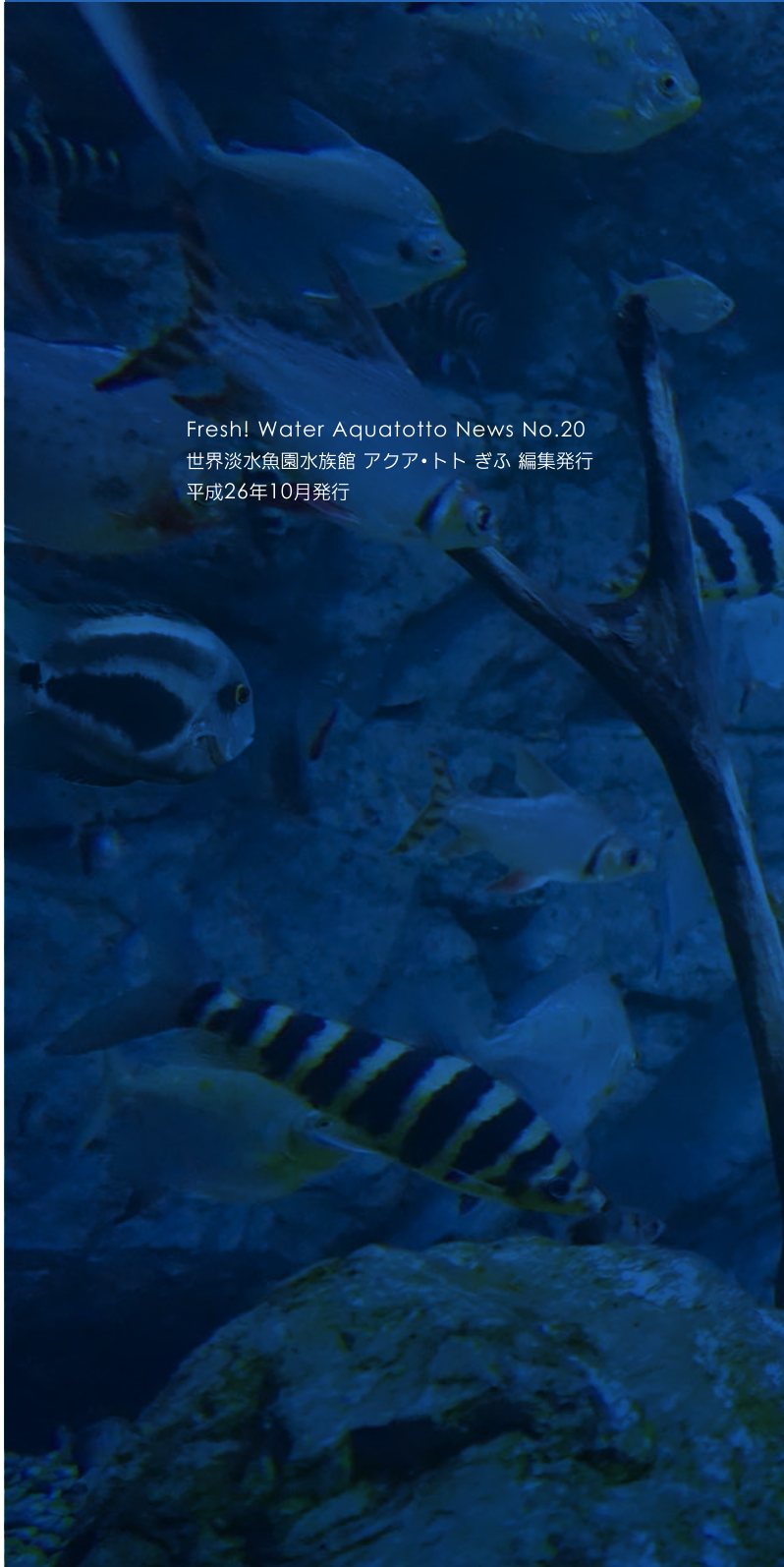
※障がい者手帳(付添者1名を含む)をお持ちの方は、個人1回券がそれぞれ半額となります。
 ※65歳以上で年齢を証明するものをお持ちの方は、個人1回券が1,350円となります。
 ※年間パスポートの有効期間は、発行日から1年間となります。

開館時間

平日 午前9時30分～午後5時まで
 土日祝 午前9時30分～午後6時まで
 ※最終入館、チケット販売及び年間パスポート等会員証の新規・更新のお手続きは、閉館時間の1時間前となります。

休館日

無休 ※ただし、臨時休館させていただく場合がございます。詳しくは水族館までお問い合わせください。



Fresh! Water Akuatotto News No.20
 世界淡水魚園水族館 アkuatotto ぎふ 編集発行
 平成26年10月発行